

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和2年11月20日発行

体験の積み重ねで「つなぐ」

校 長 齋 藤 光 夫

10月31日の学習発表会は、発表する学年を3部に分け、さらに入場者数も制限した中で行いました。また、密を避ける工夫を取り入れての、PTAによる持ち帰り限定の食品販売バザーも実施していただきました。多くの方のご理解とご協力を得ることができ、おかげ様で「今できる最高の文化祭」となりました。ありがとうございました。

さて、小木小学校では、地域学校協働活動の「ふれあいタイム」で、様々な体験を概ね月に1度ずつ（1回は60分）交代で行っています。長年、指導いただいている茶道や太鼓体験は、卒業までの6年間で6回体験することになります。しかし、今年度は、残念ながらコロナウイルスの影響で年間の活動全てが中止となりました。

1年に1回きりの体験ですが、積み重ねが大切だという2つの事例を紹介します。

1つ目は、昨年の茶道の際、指導者の桃井様からいただいた評価です。それは、「高学年が手際よく準備を手伝い、下学年に指示してくれるので、指導しやすい。これまでの経験が活かされている姿にうれしくなる。」でした。

2つ目は、学習発表会の6年生「小木祭り太鼓」での姿です。発表内容が決まった1回目の練習の際、担任は驚いていました。子どもたちが初回からリズムを叩けたというのです。発表に向けてご指導くださった赤澤様からは、「子どもたちのこれまでの経験があったからこそ、ここまで見事な演奏に仕上がった。」と褒めていただきました。

11月9日、小木幼稚園児が来校し、1年生とともに組おけさを練習しました。8月の小木港祭りの中止を受け、練習を見送っていた組おけさです。今年度中に披露する場はありませんが、それでも、今年の園児と1年生の練習は、来年につながる大切な経験となります。踊りを指導してくださった大井様、佐藤様、地方として参加した民謡クラブと指導者の富永様、中野様のお力添えがあって実現しました。ご協力に心より感謝申し上げます。

